

2020年度高校3年生世界史のオンライン授業実践

荒井 雅子・高橋 竜太郎

1 はじめに

本報告には、立教新座中学校・高等学校の、2020年4月から7月にわたるオンライン学習の方針決定から実際の運営までの経緯と、授業設計のコンセプトをまとめた。記録するのは、高校3年生選択世界史(4単位)である。

2020年3月に4月以降の休校が決まり、ICT環境についての準備が全くなかった本校は、3月～4月を生徒のICT環境調査とオンライン学習の環境整備に充当せざるをえなかった。ICT先進校に比べて、遅きに失する感はないが、多くの学校が直面している問題を記録に残すという点では、意味のあることだと考えている。

本来の始業式が行われるべき4月8日以降、紙媒体で各教科の課題を郵送し、4月中の取り組みとした。その間に、学校として生徒のICT環境についてアンケート調査を行ったところ、本校の場合は、オンデマンドであれば、中高生すべてが対応できることが判明した。また、多くの家庭で印刷環境も整っていることが分かった。これにより、5月のGW明けから、学習の形態をオンラインに切り替えるという判断がなされた。

問題はプラットフォームであったが、これも、立教大学がグーグルをベースにしていることから、グーグルIDを中高にも発行することで、グーグルのプラットフォームを利用するという

判断が、早い段階で決定された。授業を自由に作りたいという教員側の希望にも、沿った決定がなされたと考えている。これにより、既存の学習コンテンツを利用するという可能性はなくなった。

4月末から生徒のIDを順次発行・発送し、学年ごとにグーグルクラスルームへの登録を促した。オンライン授業開始は5月11日からであったが、それまでに全教科科目のクラスルームを作成し、生徒の登録を終わらせた。オンライン授業期間(生徒は自宅学習)が5月11日～5月31日のおよそ1ヶ月、分散登校期間(生徒は週1または隔日登校)が6月1日～7月11日であったため、1学期の前半と後半では学びの方法が少し異なる。

2 オンライン期間の授業のデザイン

2.1 環境

高校3年生選択世界史は、対面授業が実施されていれば、2クラス、担当者2名で受け持つ予定であった。しかし、オンライン学習に切り替えられたことで、1つのグーグルクラスルームを作成し、履修者全てを登録し、1つのクラスとして運営することになった。遠隔授業を開始するにあたり、履修者が重複している別の授業でとったアンケート結果から、生徒のICT環境は次のように類推された。第一は、家庭内に印刷環境がある生徒がほとんどで、印刷環境

がない生徒もコンビニなどの印刷機能を使えるであろうということ。次に、多数の生徒がwifiで接続する環境にあるということである。一方で少数ではあるものの、従量回線のみ環境にある生徒もいた。またアンケートからは、必ずしも端末を占有できる状態ではないこともわかり、オンデマンド型が良いという学校の判断は、このアンケート結果からも、妥当であろうと思われた。

2.2 授業デザイン

第一に、遠隔授業の関係法令について確認する。大学では2001年の告示により、同時方向型やオンデマンド型の、いわゆる「遠隔授業」が60単位を上限として認められている¹。また、今年度については、2020年3月24日付文部科学省通知²によって、今年度の対応単位は、60単位に算定しないこと、学則をかえる必要はないことが示された。

高等学校では、「平成27年文部科学省告示第92号」により、「授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる³」ことが認められて、遠隔授業が可能になっていた。しかし、受信側にも教員の配置が必要であることから、大学のように、対面講義の代替として利用できるわけではなかった。県内私立学校への休校要請は、2月28

日の一斉休校のニュースと同時にやってきたが⁴、その後続いて行われた休校装置の延長依頼のなかで、4月28日付の「新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた私立学校の臨時休業の延長及び延長期間中の対応について(通知)」で案内された「第13回新型コロナウイルス対策本部会議資料」には、休校期間の学習支援の方法として、「すべての県立高校で動画配信による学習支援を実施する。」「双方向会議型による学習については、準備を前倒しで行い順次実施する」と示されている⁵。これにより、中高私立学校でもICT化された授業が実施可能な条件が整った、といえる。

学内では、前述の通り4月の段階でオンデマンド型を選択することが定まり、大学設置基準を援用して、オンデマンドであっても、生徒が意見を表明する機会を保障するという基本方針とともに、授業の成果物を定期的集めることが求められた。少し遅れて県からの要請が届いた形になる。学校から提示されたこれらの条件を、担当授業には以下の形で反映することとした。

まず、グーグルクラスルームでは、1時間毎に「課題」を作成し、そこにすべての学習素材と課題を収納した。生徒に提供する学習素材は、授業用ノート(プリントを作成、PDF化して配信)、解説動画、授業後の課題(グーグルフォー

¹ 平成13年文部科学省告示第51号(大学設置基準第25条第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件)等

² 「令和2年度における大学等の授業の開始等について(通知)」

³ 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第88条の3高等学校は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させることができる。

⁴ 新型コロナウイルス感染症対策のための一斉臨時休業について(通知)(令和2年2月28日)<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0204/corona/documents/coronakoukou.pdf>(2020年11月30日閲覧)

⁵ 第13回新型コロナウイルス対策本部会議 次第



図 1 グーグルクラスルーム 1 時間目

ム)である(図1)。解説動画は、従量回線のみの環境にある生徒もいることを考慮し、1時間(授業時間は50分)ではなく、圧縮して授業のポイントを伝えるように心懸けた。

また、生徒は課題のコメント機能を使い、それぞれのコマに対する質問を投げることができるようにした。これにより、生徒の成果物の確保と、生徒から教員へのコミュニケーションツールの確保、という2つの要求をクリアした。授業担当者2名が、それぞれ交互に教材作成にあたったため、生徒の質問などについてもTTで対応した。課題のコメント機能の利用は教員の側にも、どの課題に対する質問かを簡単に判断することができたというメリットがあった。

他教科との兼ね合いもあり、配信日は最低でも週1回と決まっていたためにその日を尊重し、火曜日の朝に1週間分(4時間)の課題を配信し、週末土曜日に課題を提出するというサイクルを作り上げた。生徒は手元に教科書と資料集を常備して聴講していた。

選択世界史は、近代～現代を授業することが

想定されており、各学期40時間、計80時間相当の年間授業計画を作成していた。しかし、5月末までの休校によって、年間の予定も変わり、1学期は36時間程度の授業時間が確保できることになった。そこで、平均的な年間のスケジュールから想定される1学期分の範囲を、36時間分に組み直してオンライン授業用カリキュラムを作成した⁶。また、1学期範囲当を教科書のトピックスに従い12単元に分割した。単元毎に配当時間は異なるが、概ね3～4時間で1つの単元が構成されることになった。

3 単元の間

3.1 単元内の間の関係性

それぞれの時間の課題は論述形式の問の形にして、単元が終了するごとにまとめの課題(問)を設定した。そのため、各単元最後の1コマは、問が2つ(1時間単位の間と、単元のまとめの間)が出題されるという形式になった(図2)。単元の最後の時間は、2つの問に答えることが求められていたが、オンデマンド型の授業が軌道

⁶ オンライン授業用カリキュラムは、添付資料1を参照すること。

に乗るようになると、あらためて生徒の負荷を考え単元の間を設定しない場合もあった。また、試験直前の週は、課題(問)を課していないため、すべての単元がこの形で構成されたわけではない。

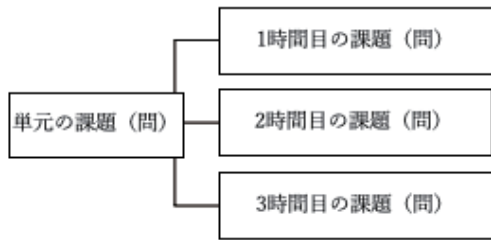


図2 単元の間構成例

新学習指導要領で「歴史的な見方・考え方」とまとめられた歴史的思考力は、日本学術会議の定義を援用すると、過去を理解する力、歴史記述を分析する力と考えられる⁷。歴史的思考力については、様々な立場からの定義がされているが、一例として、永松靖典氏は歴史的思考力として下記(1)～(4)を挙げており、(1)は読み取り・理解、(2)(3)が思考・判断、(4)が表現・認識としてらせん状に高次の歴史理解に繋がるという仮説を提案している⁸。

- (1)過去の社会的事象に関する様々な資料から、その内容を科学的に適切に読み取る力
- (2)過去の社会的事象に関して、他の事象との因果関係や、時間の推移に伴う変化などを論理的に考察し、その意味や意義を解釈する力
- (3)過去の社会的事象に関して、多面的・多角

的に考察し、複数の解釈が成立することに気づき、解釈の論拠や論理を説明する力

- (4)過去の社会的事象に関して、その意義や意味を総合的に表現するとともに、新たな課題を見つける力

確認すべきは、思考・判断と表現・認識という評価の観点にひきつけながら、読解の過程を示しつつ、事実関係の確認から考察に至る、というプロセスが想定されているということである。これを問の1問1問に具体化すれば、事実関係を問う問から、思考・判断、表現・認識を視野に入れた問までを並べることで、らせん状に高次の歴史理解につなげることができるであろう。

また、第6単元では図像の読み解きも行った。図像の読解については、情報の取り出し(テキストに書かれている情報を正確に取り出すこと)、解釈(書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりすること)、熟考・評価(テキストに書かれていることを知識や考え方、経験と結びつけること)、というPISAに示された視点を援用しているが、今回もそれに従った。

以上から、単元の中の間を、各時間後との間を、事実関係を問う具体的なもの、単元の間を思考・判断、表現・認識に繋がるものと区分し、作成することとした。ここでは、一例として、第3単元の「フランス革命とナポレオン」と第6単元の「イギリスとフランスの繁栄」について問の構造を説明する。

⁷ 日本学術会議「『歴史総合』に期待されるもの」2016年、p.10

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t228-2.pdf>) (2020/11/29 アクセス)

⁸ 永松靖典編『歴史的思考力を育てる 歴史学習のアクティブ・ラーニング』山川出版社、2017年、p.11

3.2 第3単元 フランス革命とナポレオン

第3単元はフランス革命についての、5時間扱いの単元であった。2.3に示した単元の間関係性に従い、1時間目は「フランス革命直前のフランスが抱えた問題点のうち、最も重大だと思ふものを1つ選んで、その理由を答えなさい。」という問によって、フランス革命の前提となった社会の問題点を可視化することとした。2時間目の問は、「基本的人権を明記したことで、人権宣言は評価されているが、その限界も指摘されている。以下の資料⁹が示した人権宣言の限界について具体的に説明したうえで、その「限界」について、あなた自身の評価を述べなさい。さらに、フランスですべての男性に選挙権が与えられた年と、すべての女性に参政権が与えられた年を調べなさい。」とし、人権宣言の意義を確認するとともに、その限界性も認識させようとした。3時間目は「共和政の成立以前と以降では、フランス革命の主な担い手と革命の方向性はどのように変化しましたか。教科書263頁の複合革命論を手がかりに、説明しなさい」とし、事実関係を抽出するだけでなく、ある見方を持って事象を確認することで軽めの思考問題を課し、少し長いこの単元の小括とした。4時間目は学習事項を援用した史料の読み取り問題を作成した。ここでは史料批判は割愛したが、「革命期の一市民の日記¹⁰を読んで、それぞれがどの出来事を表しているのかを答えなさい。」として、ヴァレンヌ逃亡事件、1791年憲法の成立、共和政の成立、ルイ16世

の処刑、テルミドール9日のクーデターを確認した。5時間目は「大陸封鎖令の目的と、その結果についてまとめなさい。」とし、ナポレオンの侵略戦争がヨーロッパ経済に与えた影響についてまとめることとした。

単元の間は「フランス革命は大西洋革命の一角を形成するという立場から、その理由を説明しなさい。」とした。これは、前の単元（アメリカ革命）を視野に入れて、環太平洋革命という歴史的な見方を評価するという問であった。とはいえ、抽象的な問であったので、「フランス革命のどのような出来事、また、どのような性格から、大西洋革命の一部だと言えるか。影響を及ぼした点だけでなく、革命の類似点なども探すと、考察が深まります」という註記をつけた。

3.3 第6単元 イギリスとフランスの繁栄

次に第6単元だが、この単元は「イギリスとフランスの繁栄」で、1時間目の「パクス＝ブリタニカとフランス第二帝政」、2時間目の「科学の時代」から構成されている。各時間の課題（問）は、1時間目を「世界史図録 p.182「コミュニケーション階梯にみる19世紀のフランス」の読み解きの課題に取り組みなさい。それぞれの人物、一番下の女神と一番上の女神が表す出来事をそれぞれ答えよ」、2時間目を「世界史図録 p.196にはダーウィンの進化論を揶揄した風刺画が描かれている。この風刺画について、①ダーウィンの進化論の概要を書いたうえで、②この風刺画

⁹ オランブ＝ド＝グージュの「女権宣言」を引用した。

¹⁰ セレスタン ギタル、レイモン オペール編集、河盛 好藏訳『フランス革命下の市民の日記』中公文庫、1986年

では、何が「風刺」されているのかを説明せよ。」とした。2時間とも、図像の読み解きになったことが特徴である。それぞれ、1時間目の読み解きは、フランス第二帝政に至るまでの政治的な変遷を文字化できること、2時間目の読み解きは、ダーウィンの進化論がどのような点で批判されたかについて理解できることを目的とした。使用した史料が、絵画(風刺画)であるため、ここでは図像の読み解きに必要なステップを用いて、その第一段階がクリアできればよし、とした。

単元の問は「学問的成果が、社会や政治に応用されることがある。社会ダーウィン主義は当時のイギリスやフランスに、植民地主義の正当化、という結果をもたらした。それにない、皆さん自身が、当時の歴史的状況をふまえて、社会ダーウィン主義をつかい、植民地主義を正当化しなさい。」とした。第2項で触れた社会ダーウィン主義を使って、第1項で学んだ当時の社会背景を踏まえつつ、植民地主義を肯定的に捉える立場で説明をさせる問である。当時の社会状況を理解することで、なぜ、社会ダーウィン主義が人々の支持を得たのかを分析することができれば、答えられる問題になると考えた。

3.4 評価の視点

上記の取り組みは、2つの視点から評価する必要があるだろう。1つは、作成した問が、意図した構造になっているかどうか、という視点である。残念なことに十分に準備する時間もなく走りながら考える状態であったので、青写真を描いたものの、成功しているかどうかは測定し兼ねるところである。このような形で示すこ

とで、ご判断をいただければと思う。

次に、生徒の反応から、構造化が成功したかどうかを測定するという視点である。これは、今回の報告のメインストリームからは外れるため、機会を別にして報告することができればと思う。生徒の課題は、評価されて返却されたが、クラスルーム上では、課題にループリックを設定して、生徒が評価を確認できるようにした。これも試行錯誤の結果、たどり着いた方法であった。

4 分散登校期間の授業デザイン

6月以降分散登校が始まったが、第2週までは週1程度の登校であり、学校での滞在時間も限られていたため、授業が始まったのは6月第3週の15日からである。授業は行うものの、分散登校(生徒にとっては1日おきの登校)であるため受講生は半分で、教える立場に立てば、同じ授業を2回行うことになる。つまり、週4時間のものが、週あたり2時間相当になった。そのため、この期間は、オンデマンド型授業と対面授業のハイブリッドにすることにした。設計としては、オンデマンド型の配信のベースは維持しつつ予定期間を終了し、登校した生徒にはオンデマンド型で提出した課題の評価を行う、という形にした。通常なら50分ある授業時間が40分に短縮されてしまい、毎時間35分程度の展開で数個の課題について意見交換を交わす時間的な制約はあったものの、この試みは思った以上に手応えのあるものだった。

この期間、生徒はオンライン授業をうけ、課題まで提出した状態で教室に集合している。予習が済んだ状態で次の取り組みに向かうという

という状態ができあがったことで、意図せず、反転授業の形になった。

授業の進め方は、こちらが良いと思った生徒の解答をスライドで映して、クラスで共有するという形で実施した。その際に模範解答例となる生徒には事前に利用許諾を受けた。模範解答例とともに、評価の観点を示し、生徒は手元にある自分の解答とどこが違うか、ということについて、その後クラス全体で意見交換をするという形になった。

最初にゴール（模範解答例）が示されたことで、生徒の思考活動の幅が狭められるのではないかと、という危惧もあるが、逆に、目指すべきポイントが示されたことで、自分の解答を分析しやすくなったのではないかと、という印象を受けた。授業担当者が想定した以上に、活発な意見交換がなされ、分散登校期間の授業は、いろいろな制約があったにせよ、充実したものであった。アンケート等で記録を残しておくべきだったと、悔やんでいる。

表 1 分散登校期間のオンライン配信と授業進捗の関係

	オンライン授業の授業番号と配信項目	対面授業復習項目(授業番号)
6月3週	21 民主主義のさらなる民主化 22 南北戦争 23 工業国家への発展 24 ラテンアメリカの独立	1 回目 ガイダンス 2 回目 01～05
6月4週	25 カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・南アフリカ 26 オスマン朝の苦悩とタンジマート 27 イスラーム改革運動とアラブ地域の動向 28 イラン・アフガニスタンの動向	1 回目 06～10 2 回目 11～15
6月5週・ 7月1週	29 ヨーロッパ勢力の進出と南アジア・東南アジア 30 南アジアの植民地化と大反乱 31 19世紀の東南アジア 32 ヨーロッパの進出とアヘン戦争	1 回目 16～20 2 回目 21～25
7月2週	33 欧米諸国との条約締結 34 太平天国と洋務運動 35 日本の開国と明治維新 36 東アジア国際秩序の再編	1 回目 26～30 2 回目 31～32 ※ 33以降は課題なし

5 おわりに

追い立てられるように始まったオンデマンド型授業であったが、いくつかの反省とともに良かった点も挙げられるだろう。

1つめは、オンデマンド型一般に言われることで、反復して映像を視聴することができるという点である。特に、自分にとっての弱点項目など、理解が追いつかない部分でのフォローが自動的にできる、ということになる。そしてそのフォローをするのは、生徒自身である。2つめは、新しい歴史授業の方法を試行することができた点である。当該授業については、かねてより論述の導入により生徒の歴史的思考力を育成することができるのではないかと考えていたため、この機会に、オンデマンド型の課題にそれを充当することができた。歴史的思考力の育成に留まらず、自分の言葉で学びをアウトプットすることで、知識のさらなる定着が図られることも考えると、最後に文字でまとめる作業を、オンデマンド型か否かにかかわらず、授業の一

つの形として定着させられればと思う。

オンデマンド型配信の弱点は、第一に、生徒が教室というまとまりを体感することができない、ということだろう。この点、オンライン型の授業や対面授業には及ばない。しかし、幸いなことにこの1学期は、1ヶ月ほどは対面授業を行うことができ、その弱点もフォローすることができた。次の弱点は、受講者である生徒の反応をこちらが感じながら授業をすることができない点である。オンライン型でも、受講者が増えれば増えるほどそれが難しくなるのだが、対面授業を前提に組み立てていた立場としては、授業の前提を大きく覆された体験であった。

2学期は8月末に開始され、2学期末まで対面授業を継続することができた。授業は対面に戻ったが、まとめの間をグーグルクラスルームで配信するという形は継続している。1学期の取り組みが、良い形で日々の授業にフィードバックできたのではないだろうか。

添付資料1 問一覧

回	項目	項目の問
1	商業社会の成立	18世紀初頭の国際経済におけるイギリスの立場（どのような地域と、どのような貿易を行っていたのか）についてまとめなさい。
2	イギリス産業革命の展開	産業革命期には、様々な技術革新が行われました。この時期の技術革新でもっとも影響力が大きいと考えられるものを一つ選び、その理由を答えなさい。
3	資本主義的世界経済の確立	後発資本主義国の産業革命とイギリスの産業革命の違いを説明せよ。
4	13植民地から合衆国へ	アメリカ13植民地が独立を成功させた対外的要因について説明せよ。
5	合衆国の成立と「アメリカ革命」	アメリカ独立革命は独立であると同時に革命であるといわれる。どのような点で市民革命なのか、イギリス革命との比較を視野に入れつつ説明せよ。

回	項目	項目の問
6	アンシャンレジームから立憲君主政へ (1)	フランス革命直前のフランスが抱えた問題点のうち、最も重大だと思われるものを1つ選んで、その理由を答えなさい。
7	アンシャンレジームから立憲君主政へ (2)	基本的な人権を明記したことで、人権宣言は評価されているが、その限界も指摘されている。以下の資料が示した人権宣言の限界について具体的に説明したうえで、その「限界」について、あなた自身の評価を述べなさい。さらに、フランスですべての男性に選挙権が与えられた年と、すべての女性に参政権が与えられた年を調べなさい。
8	共和政の成立と展開 (1)	共和政の成立以前と以降では、フランス革命の主な担い手と革命の方向性はどのように変化しましたか。教科書 263 頁の複合革命論を手がかりに、説明しなさい。
9	共和政の成立と展開 (2)	革命期の一市民の日記を読んで、それぞれがどの出来事を表しているのかを答えなさい。
10	ナポレオンの帝国	大陸封鎖令の目的と、その結果についてまとめなさい。
11	ウィーン体制	ウィーン体制下におけるメッテルニヒの方針と行動、そして後世の評価について説明せよ。
12	ロマン主義の時代	1. モーツァルト「フィガロの結婚序曲」およびベートーヴェン「交響曲第7番 (第4楽章)」を開き、両者の違いについて自由に論じよ。ただし、以下の6語からできるだけ多くの語を使用せよ。(市民 貴族 合理的均整 感情 理性 ロマン主義) 2. ロマン主義が興隆したのは、そこにいかなる源泉が存在したゆえか。また、これはいかなる思想と結合したか。それぞれ複数挙げつつ、自由に論じよ。
13	改革の諸思想	産業革命とフランス革命によって、ヨーロッパ社会は近代的な姿に変貌し、市民社会が成立することになった。また同時に両者はともに、社会主義思想が成立する背景ともなった。産業革命・フランス革命と社会主義思想成立の関連について説明せよ。
14	2月革命	1848年フランスにおける社会主義勢力について説明せよ。
15	諸国民の春	1848年における革命・独立・自治・自由主義などの動きはどのようなものであったか。オーストリア帝国内の4都市における動向について、その隆盛と鎮静を明らかにしつつ説明せよ。
16	パクス＝ブリタニカとフランス第二帝政	世界史図録 p182「コミューン階梯にみる19世紀のフランス」の読み解きの課題に取り組みなさい。それぞれの人物、一番下の女神と一番上の女神が表す出来事をそれぞれ答えよ。
17	科学の時代	世界史図録 196 ページにはダーウィンの進化論を揶揄した風刺画が描かれている。この風刺画について、①ダーウィンの進化論の概要を書いたうえで、②この風刺画では、何が「風刺」されているのかを説明せよ。

回	項目	項目の問
18	東方問題からクリミア戦争へ	パリ条約は、オーストリアにとって有利なものとなった。どの条項が、オーストリアのどのような思惑に、なにゆえ適合するものであったのか。地理的条件に言及しつつ、具体的に説明せよ。
19	イタリアとドイツの統一	カヴールがイタリア統一にあたって最も重要な同盟相手と考えた国(もしくはその国の指導者)の、イタリア統一に関連しての動きはどのようなものであったか、説明せよ。
20	イタリアとドイツの統一	(選択問題) 最初に1. または2. どちらを選択したか明記のうえ解答せよ。 1. プラハ条約の内容は、プロイセン圧勝であったわりに、オーストリアに対して寛大な内容であったといえる。ビスマルクはどのようにしてそうしたのか、考えられるところについて説明せよ。 2. エムス電報事件において、ビスマルクは何を目的にどのように情報操作を行い、そしてどのような結果をもたらしたか、説明せよ。
21	民主主義のさらなる民主化	フロンティアについて、次の語を用いて詳しく説明せよ。 (未開拓地 移民 先住民)
22	南北戦争	19世紀前半以降南北戦争までのアメリカ合衆国の、通商政策をめぐる北部と南部の対立を、イギリスとの関係から説明せよ。
23	工業国家への発展	南北戦争後、19世紀末までにアメリカの工業生産高が4倍になり、イギリスを抜いて世界一になった背景について説明せよ。
24	ラテンアメリカの独立	ラテンアメリカ諸国の独立運動は、どのような共通性があるか。シモン=ボリバルとサン=マルティンを例に説明せよ。
25	カナダ・オーストラリア・ニューージーランド・南アフリカ	表1は自治領の多くが植民地であった1870年と、自治領化した後の1913年の、イギリスからの海外投資の総額と割合を示している。それぞれの地域は、自治領化前後でイギリスとの経済的結びつきは変わったと言えるか。資料を使い説明しなさい。 (表の出典: 大石, 達良「独占形成期におけるイギリス直接投資に関する一考察 1870-1914年」『経済論叢』(1989), vol.144 (5-6), pp.662-682)
26	オスマン朝の苦悩とタンジマート	ギュルハネ勅令の抜粋を参考に、勅令の特徴とまとめなさい。根拠となる勅令の対応部分は、抜き書きして示なさい。
27	イスラーム改革運動とアラブ地域の動向	資料から、ウラービー・パシヤの反乱は、何を目指していたのか読み取ろう。ウラービー・パシヤの目指していた事柄のうち、ヨーロッパの思想の影響を受けたと考えられる部分を指摘しよう。

回	項目	項目の問
28	イラン・アフガニスタンの動向	ダーウィンについて述べた文章を読み、アフガーニーはどのように考えているのか、説明しなさい。
29	ヨーロッパ勢力の進出と南アジア・東南アジア	ヨーロッパ諸国による「重商主義的な支配」の具体例を 2 つ以上挙げよ。
30	南アジアの植民地化と大反乱	イギリス東インド会社によるインド支配について、2 つの税制について説明し、それらがインドの伝統的な村落社会に及ぼした影響を述べなさい。
31	19 世紀の東南アジア	スライド 29 で示した 19 世紀以降の資本主義的な植民地支配について説明し、その実例として、1 地域を選び、その地域ではどのような支配が行われていたかを具体的に説明しなさい。
32	ヨーロッパの進出とアヘン戦争	『世界史図録』210 頁における 2 枚の絵のうち、右側はイギリス人ギルレイの描いた風刺画である。これは左側のスケッチと比べてどのような違いがあるか。また、ギルレイは清のどのようなあり方ゆえに、このような描き方をしたのか、詳述せよ。
33	欧米諸国との条約締結	
34	太平天国と洋務運動	
35	日本の開国と明治維新	
36	東アジア国際秩序の再編	

※ 33 ～ 36 回は試験前の週であったため、出題せず。